

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレー: 昨年度からの変更項目

Table with columns for evaluation items, categories, and results. Includes rows for '国民に対して提供するサービス...' and '教育に関する事項'. Contains detailed descriptions of activities and their evaluation results.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナウイルスにより未評価

※記載担当
【○】主担当
【△】副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレン: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄:年度計画 認:機関別認証評価で指摘された事項(○:書面指摘,△:訪問調査時指摘) 外:外部評価委員会で指摘された事項 JB:JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
40	1	1.1	(2)	①	1															年度進行で対応している(教) 適正に対応している。(機) カリキュラム改正において実験実習科目を整理しその内容を改訂した。前年度に引き続き現在担当で精力的に実験実習書の内容のブラッシュアップに努めている。(電) With コロナに対応したソーシャルディスタンスを意識した実験体制の構築を急進精力的に行った。可能なその内容を紀要等で論文化した(電) 改正後のカリキュラムに基づき科目を開講した。(制) 対応した。(生) 適正に対応(材) 対応している。(文) 対応している。(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 理:A	A		・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・適正に対応する。(機) ・次年度も今年度と新規科目が数件発生するので同様に対応(電) ・次年度も継続する。(制) ・適性に対応する(生) ・次年度の継続実施(材) ・継続(文) ・一般教員担当によるリベラルアーツ特論1および2を新設し、学生の能動的な学習に寄与した。また、学科横断による学習活動により、各学科の特徴を生かした学習活動を実施できた。次年度も継続する(理)
41	外	1.1	(2)	①	1															各学科に検討依頼した結果、今年度は改組は行わないこととなった。(教) 専攻科では改組は検討していないが、令和5年度開始となる「九次との連携教育プログラム」に関係する新コース設置に向け検討を進めている(専) 現段階では検討していない。(機) 現段階では検討していないが他校等の動向には継続的に留意。(電) 現状を踏まえ検討しなかった。(制) 本年度の予定は無い。(生) 学科階層の予定なし(材)	教:A 専:B 電:C 制:A 生:C 材:A	B		次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して検討していく。(専) ・検討の予定はない。(機) ・現段階では検討していないが他校等の動向には継続的に留意。(電) ・必要に応じて検討する。(制) ・予定は無い(生) ・学科改組の予定なし(材)
43	1	1.1	(2)	①	1															特例適用専攻科修了見込みでの申請ガイダンスを9月に実施し、専攻科研究論文指導教員への指導依頼を行った。(専) 令和2年度修了見込者の単位取得状況の続きをした。2月修了査定会議を経て最終申請を行う(専)	専:A	A		・継続して検討していく。(専)
44	1	1.1	(2)	①	1															新規申請した個々の未認定や取り消し例が増えてきて、当該コースへは安定的に維持に努めていただくよう依頼している(専)	専:B	B		・継続して検討していく。(専)
45	1	1.1	(2)	①	1															再試験を規則に追記した。また、教務留意事項の見直しも行っている。また、試験問題、成績評価方法の相互チェックを行っている。(教)	教:A	A		次年度も引き続き実施する。(教)
46	1	1.1	(2)	①	1															平成12年からデータを作成しており、平均点の推移、スコア分布の変化、高得点者の割合等の分析を行っている。コロナの影響により今年度は未実施だったが、次年度から再開予定(理)	理:D	D		・次年度から再開する。(理)
47	1	1.1	(2)	①	1															コロナのため実施できず(教) コロナの影響により今年度は未実施だったが、次年度から再開予定。(理)	理:D	-		次年度も引き続き実施する。(教) 次年度から再開する。(理)
48	1	1.1	(2)	①	1															データを作成し、平均点の推移、スコア分布の変化、高得点者の割合などの分析を行った(理)	理:A	A		次年度も継続する。(理)
49	1	1.1	(2)	①	1															学生の関心を高める実験方法や項目の検討を踏まえて、一般文科・理科棟の改修工事に伴う物理実験室および化学実験室の実験装置を新装した。(理)	理:A	A		・物理実験室および化学実験室の実験装置を新装した。次年度は学生の関心を高める実験方法や項目の検討を踏まえた実験を実施する(理)
50	JB	1.1	(2)	①	1															JABEEについては各学科にて対応していただいているが、令和3年度からはJABEE継続はしないことを決定している。(専) 企業の求人面談の際に要望を聞き取り調査した。(機) 今回認証評価対応で本校OB及びOB採用の企業様上司にアンケートを行いその意向を収集した。(企業様からの要望の中には既に本学科が採用済みの教育システムを推奨する声もあった。)(電) 面談した企業で卒業生がいる場合、卒業生と勤務先の上司にアンケートを実施した。(制) 卒業生アンケートを実施した。(生) 卒業5年をめどにアンケートの実施、進路先の企業、大学等へのアンケート実施(材)	専:B 機:C 電:A 制:A 生:A 材:A	C		・令和3年度からはJABEE継続はしないことを決定しており、項目からJABEEに関する部分は削除依頼。(専) ・求人企業にアンケートを実施する予定であるが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・授業アンケート結果の検討をすると同時に、本校に求人に見えた企業様中心にアンケートを実施する(内容等を精査)(電) ・次年度も継続する。(制) ・次年度予定は無い(生) ・次年度の継続実施(材)
51	認	1.1	(2)	①	1															前期末と後期末に実施している。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)
52	外	1.1	(2)	①	1															昨年度変更した内容で今年度実施した。(教)	教:C	C		・次年度は本事項は削除。(教)
53	1	1.1	(2)	①	1															実施している。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)
54	認	1.1	(2)	①	1															2月の自己評価検討委員会で報告する。(企)	企:A	A		・引き続き実施する(企)
55	認	1.1	(2)	①	1															1月の自己評価検討委員会で審議した結果、本年度は変更しないこととなった。(企)	企:A	A		・引き続き実施する(企)
56	認	1.1	(2)	①	1															実施に至っていない(企)	企:D	D		
58	1	1.1	(2)	①	2															平成30年1月11日に包括協定に関する調印を行った後、令和2年度も昨年度同様に3月に推薦入試制度に関係したインターンシップを実施する予定である。(専)	専:A	A		・継続して検討していく(専)
59	1	1.1	(2)	①	2															例年、本科4年生、および専攻科1年生が夏季休暇中に実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症のため中止(産)	産:B	B		・継続して実施していく。(産)
60	1	1.1	(2)	①	2															例年、テクノネット久留米、久留米市並びに久留米リサーチパーク等との連携により積極的な共同研究・委託研究の受け入れを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症のため停滞(産)	産:B	B		・継続して実施していく。(産)
61	1	1.1	(2)	①	2															令和元年度に包括協定を調印したが、教育課程の構築に関しては未検討(専)	専:C	C		・継続して検討していく(専)
62	1	1.1	(2)	①	2															60単位の外部機関単位を取得できる学則改正を行った。今のところ本科で対象となる科目はない。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き検討する。(教) ・単位互換制度などで企画主事は担当から外してよいと思われる。(企)
63	1	1.1	(2)	②	1															今年度はコロナの影響で実施できなかった。(教) 新型コロナの影響で海外留学に関する意識が低下しており、学生会の組織づくりに至っていないが、JASSOの派遣が採択された。(企)	企:D	D		・次年度も引き続き実施する。(教) ・学生の組織化が滞っているため、実施する必要がある。また、留学を容易にするため、奨学金等外部資金に引き続き応募する。(企)
64	1	1.1	(2)	②	1															該当者なし(専)	専:C	C		・継続して検討していく(専)
66	1	1.1	(2)	②	1															新型コロナのため、実施不可能。(企)	企:	-		・JSTがさくらサイエンスプランに関係するアジア諸国との交流会を開催しているため、積極的に参加する(企)
67	1	1.1	(2)	②	2															該当者なし(専)	専:C	D		・継続して検討していく(専)
68	1	1.1	(2)	②	2															TOEICは実施できたが、英語外部評価テスト(3年)はコロナのため実施できなかった(文) TOEIC とIPテストを合計年3回実施している。英語外部評価テスト(3年生)はコロナのため実施できず。(教)	教:A 文:B	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文)
69	1	1.1	(2)	②	2															中止のため、記載事項なし(学) 今年度はコロナ禍のためプレコンへの参加推進は見合わせた(文)	学:D 文:B	C		・例年通り実施予定。(学) ・継続(文)
70	1	1.1	(2)	②	2															クラウド版が導入されたため、年度当初の休校時期もふくめて常時活用することができ、学生の英語力の向上に大いに役立った(文)	文:A	A		・継続(文)
71	1	1.1	(2)	②	2															4年生の工業英語において、FE試験レベルの英文の理解を到達目標として掲げている。(機) 1年及び2年生に学科独自の取り組みとしてネイティブスピーカーによる少人数ディベート等をおこなう科目を導入している。(電) Toeicスコアは各種編入等試験における学科推薦における留意項目の一つとしており、それを基盤に更なる英語力の達成目標導入や達成者表彰等を検討予定(電) 「電子計算機基礎」の一部授業で英文教科書を利用した。(制) 本年度も、工業英語(専門科目)を外国人講師に担当して頂いた。また、ネットアカデミーの活用を推奨している。(生) 4M工業英語において、少人数教育を行い取り組んでいる。専攻科生が海外での研究論文発表(材)	機:A 制:B 生:A 材:A	A		・今年度と同様に実施予定。(機) ・プラクティカルコミュニケーションは学科の主要な柱の一つとしており、今後も低学年での実践的演習に力を入れていく。英検やTOEIC、TOEFL等の一定の成果達成者に対しては学科表彰を継続検討。(電) ・授業計画時に必要に応じて英語教育を取り入れる。(制) ・来年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
72	外	1.1	(2)	②	2															H28年度の専攻科入試より英語力評価についてTOEICスコアの採用の他、推薦入試に関してもスコアを採用した。専攻科研究論文の発表会予稿に英文アブストラクト記載を必須とした取り組みを継続している。(専) 現段階では検討していない。(機) 1年及び2年生に学科独自の取り組みとしてネイティブスピーカーによる少人数英語によるディベート等をおこなう科目を導入している。(電) Toeicスコアは各種編入等試験における学科推薦における留意項目の一つとしており、それを基盤に更なる英語力の達成目標導入や達成者表彰等を検討予定(電) 英語の授業を持たない専門学科では、英語力の達成目標の導入は検討していない。(制) 本年度該当なし。(生) 材料システム工学科では、「到達目標:外国人留学生と文化の異なりを理解し、交流することが出来る。」としている。(材)	専:B 電:A 制:B 生:C 材:A	C		・継続して検討していく。(専) ・検討の予定はない。(機) ・プラクティカルコミュニケーションは学科の主要な柱の一つとしており、今後も低学年での実践的演習に力を入れていく。英検やTOEIC、TOEFL等の一定の成果達成者に対しては学科表彰を継続検討。しかし全体への達成目標設定の予定は無し(電) ・教育課程を変更するときに検討する。(制) ・予定は無い(生)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレン: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項			令和2年度 自己点検評価書													記入担当者報告用データ			次年度へ向けての対応(担当者データ)						
1	2	3	教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	担当 者 評 価	項目 別 評 価	事項 別 評 価		
73	1	1.1 (2) ②	2																			A		・変更。一般文系内各教科がコミュニケーションを重視した教育を行っている。この項目は71行目と重複している。来年度は「日本語によるコミュニケーション能力」として区別してほしい。(文) ・リベラルアーツ特論1および2(数学)において、プレゼンテーションやディスカッションを重視した輪講を実施した。次年度も継続する(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も専門科目の電気電子演習で外国人非常勤講師を活用し英語プレゼンを通して意見や質問の仕方、ディベート等基本的コミュニケーション手法を低学年から指導する。授業内容についてスタッフ間での授業内容等の検討を開始する。(電) ・次年度も継続する(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
74	1	1.1 (2) ②	2	△																		A		・各学科に委ねている(教) ・4年生の工業英語において、FE試験レベルの英文の理解を到達目標として掲げている。(機) ・学科独自の取り組みとして現在1年~2年の演習授業において、ネイティブスピーカー(非常勤講師)による少人数の英語ディベート等のグローバル人材育成を視野に入れた(専門科目としての)英語教育に注力している。(電) ・卒業研究に必要に応じて英語論文の読解を実施した。(制) ・本年度も、工業英語(専門科目)を外国人講師に担当して頂いた。また、ネットアカデミーの活用を推奨している。(生) ・4年工業英語において、少人数教育を行い取り組んでいる。(材) ・修士の学位/学部の英語発表、アメリカと学生間でビデオリレーによる双方向性のあるコミュニケーション活動を取り入れた(文) ・授業で英語のテキストを取り入れたり、リベラルアーツ特論でプレゼンテーションを英語で行うなどを検討したが、学生教員双方の負担増につながる恐れがあるため、実施していない(理)	
75	1	1.1 (2) ②	2				○															専:B	D	・継続して検討していく(専)	
77	1	1.1 (2) ②	2				○	○														専:B 企:A	-	・継続して検討していく。(専) ・マレーシア、ベトナムとの覚書の締結を検討する。ツールズIUTとの覚書を締結する。(企)	
78	1	1.1 (2) ②	2			△	○						△	△	△	△	△					生:C	-	・新型コロナの様子を見ながら、JASSOの受入4名を中心に実施する。(企) ・希望があれば受け入れる。(機) ・検討する(生) ・次年度の継続実施(材)	
79	1	1.1 (2) ③	1			○																学:C	C	・例年通り実施予定。(学)	
80	1	1.1 (2) ③	2			○																学:B	B	・例年通り実施予定。(学)	
81	1	1.1 (2) ③	2	△	○																	教:A 学:A	A	・次年度も引き続き実施する。(教) ・例年通り実施予定だが、1年生を対象とした暴力団排除教育は廃止する。(学)	
82	1	1.1 (2) ③	3	○			△															企:A	A	・次年度も引き続き実施する。(教) ・全学生のメーリングリストによる広報、全校集会での報告会を引き続き行う。(企)	
83	1	1.1 (2) ③	3			△	○						△									専:B	B	・今年度同様の実施する。次年度は教務主事を担当から外し、専攻科主事を主担当とする。(教) ・継続した支援を申請していく。(専)	
84	(3) 多様かつ優れた教員の確保																								
85	1	1.1 (3) ①	1			○																	A		・適宜昇任人事を行い、適正な教授・准教授・講師・助教の配置に努めている。(教) ・適正配置をしている。(機) ・昨年度、新任教員(助教)を採用し、ようやく長年の宿題であった定員充足状態になり適性化完了。(電) ・助教、准教授、教授を適正に配置している。(制) ・昨年度再雇用の特任教授が1名、一昨年度辞職した准教授1名の代わりに教員を講師として1名新規採用した。教授が5、准教授が4、講師が1、助教が1、特任教授が1名で学科教員数は12名となった。(生) ・教授4名、准教授3名、講師1名、助教2名(材) ・適正に配置している。教授5名、准教授6名、助教1名である(文) ・令和元年度及び令和2年度に教員公募を実施し、適正に配置した(理)
86	1	1.1 (3) ①	1			○																	A		・学科毎の教授・准教授(講師)・助教の標準数を決め、不補充制度に対応するためのシミュレーションを学科長に提示した。(教) ・該当なし。(機) ・将来の定年退職教員発生時に向け対応検討を継続。(電) ・該当しなかった。(制) ・今年度該当なし。(生) ・該当なし(材) ・対応している(文) ・対応済み(理)
87	1	1.1 (3) ①	1			○																	教:A 総:A	A	・教育体制整備に関わる教員人員枠に対応するための学科毎の教授・准教授(講師)・助教の標準数を決め、シミュレーションを学科長に提示した。(教) ・平成36年度人員枠策定に関する調査票を提出した。令和2年度は暫定人員枠+1とした(総)
88	1	1.1 (3) ①	1			○																	A		・全学科とも採用は公募で実施している。(教) ・該当なし。(機) ・同基準に沿って採用活動(公募)を実施しており、一昨年度もその基準で採用を行った。(電) ・教員を採用するときは、公募制としている。(制) ・昨年度公募し、今年度新規採用した。(生) ・該当なし(材) ・公募制により採用した(文) ・対応済み(理)
89	1	1.1 (3) ①	1			○																	A		・現在も、民間企業経験者・高専の卒業生・留学経験を有する教員も多様なキャリアを持つ教員で構成されており、各学科の採用の際も本観点を考慮して公募している。(教) ・民間企業経験者が3名いる。(機) ・当学科は現教員においても企業経験者、国際化対応経歴者、大学での教育・研究経験者等、多様な経歴の教員が多い。新規採用にあっても本観点を考慮して公募している(電) ・民間企業経験者が3名在籍している。(制) ・現状で、大学経験者3、企業経験者3、大学・企業経験者1名が所属している。(生) ・新規採用がないが、現状の教員で企業経験者3名(材) ・一般科目(文科系)では教員免許取得や教員経験を重視している(文) ・民間企業実務経験者を採用済み(理)
90	認	1.1 (3) ①	1																				総:A	A	・各教員の基礎データとして所属学科ごとの「教員履歴表」を作成している。なお、詳細なデータは人事記録として保管している。(総)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

【最左欄】 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
91	1	1.1	(3) ①																			採用条件として「博士の学位を有するもの。または、数年以内に博士の学位取得が可能であるもの。」を公募の条件としている。(教) 該当なし。(機) 同基準に沿って採用活動(公募)を実施しており、一昨年度もその基準で採用を行った。(電) 教員公募を実施する場合、博士同等の能力がある者も対象者に含めることとしている。(制) 本年度採用した。(生) 該当なし(材) 実施済み(理)	教:A 電:A 制:A 生:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・教員の採用予定なし。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も同基準に沿って採用活動(公募)を実施する。(電) ・採用時に選考基準の1つとする。(制) ・必要に応じて行う(生) ・採用予定なし(材)	
92	1	1.1	(3) ①																			一般文科の教員公募の際に本観点を考慮してもらっている。(教) 全員修士号又は博士号を取得している(文)	教:A 文:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文)	
93	1	1.1	(3) ①																			能力が同等と認められる場合は女性を優先することを公募要項に記述している。ポストク女性、博士後期課程在学中の女子学生を対象とする高専女性教員体験インターンシップを公募し、応募があったがコロナで実施できなかった。(教) 新規採用にあたり、応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載している。(機) 公募の中で、同等のレベルの志願者であれば女性採用を進める旨公募文書で明示している。(電) 教員公募を実施する場合、能力が同等と認められる女性を優先することを記載している。(制) 女性研究者のインターンシップを募集している。以前、受入実績もある。昨年度実施された一般理科のインターンシップに協力した。今年度一般文科のインターンシップに協力予定であったがコロナのため中止になった。(生) 女性インターンシップ受け入れ可能(材) 公募要項に「力量が同等の場合は女性を積極的に採用する」と明記している(文) 公募の際に、同等の能力があれば女性を採用すると明記している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・教員の採用予定なし。(理) ・公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行う。(機) ・次年度以降も公募時には、同等のレベルの志願者であれば女性採用を進める旨公募文書で明示する。(電) ・採用時に選考基準の1つとする。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
94	1	1.1	(3) ①																			採用については募集要項確認、調査委員の選定、選考まで規則に従って人事連絡委員会が審議・承認している。また、昇任基準(校長裁定)にそった昇任審査を行っている。(教) 適性に運用している。(機) 適正に運用している。(電) 適正に運用している。(制) 適性に運用している。(生) 適正に運用している(材) 適正に運用している(文) 適正に運用している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・次年度も適正に運用する。(理) ・適正な運用を行う。(機) ・今後も適正な運用に取り組んでいく。(電) ・次年度も適正に運用する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
95	1	1.1	(3) ①																			紀要は査読付論文扱いとはならない(専)	専:B	B		・継続していく。(専)	
96	認	1.1	(3) ①																			非常勤教員の授業参観を実施した。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)	
97	外	1.1	(3) ②																			高専クロス・アポイントメント制度の実施について、検討する。(総)	総:C	C		・高専クロス・アポイントメント制度の実施について、検討する。(総)	
98	1	1.1	(3) ②																			把握するように努めており、告知があれば本務に支障がない範囲での参加を促している。今年度は告知がなかった。(教)	教:C	C		・次年度も引き続き実施する。(教)	
99	外	1.1	(3) ③																			会議時間の調査を年度内に行い、次年度に反映させる。また、ゆう活シフトを年中採用できるようにした。(企) 前年度に引き続き、「ゆう活」シフトを導入し、9月に同シフトを希望する全教職員を対象に実施した(総)	企:A 総:A	A		・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(総) ・Office365を活用した業務の効率化による会議時間の短時間化について検討する。(企)	
100	1	1.1	(3) ③																			採用条件に同等の能力を有する場合は女性を優先と明記。(教) 新規採用にあたり、応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載している。(機) 女性教員1名(准教授)在職。公募時には本校統一の文面を記載し周知に努めている。(電) 女性教員は在籍していない。(制) 女性教員1名が所属している。(生) 女性教員1名が所属している。(材) 今年度国語教員に女性を採用し、女性教員は12名中5名となっている(文) 既に女性教員(数学)1名が在籍している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:B	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・公募の際に、同等の能力があれば女性を採用すると明記している。(理) ・公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行う。(機) ・今後も公募時には本校統一の文面を記載し周知に努める。(電) ・採用時の選考基準の1つとする。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
101	1	1.1	(3) ③																			総務課での検討に委ねている。(教) 事務職員の変形労働制のシフトを見直し、出勤時間の選択肢を増やすことで、子育て支援(子供の送り迎え)、介護などに配慮した(総)	総:A	A		・次年度は、教務主事を担当から外す。(教) ・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(再掲)(総)	
102	1	1.1	(3) ③																			同居支援プログラムでの派遣を実施している。また、今年度から勤務シフトを増やした。(教) 新規に同居支援プログラムによる受け入れ1名を行った。(総) 教職員の変形労働制のシフトを見直し、出勤時間の選択肢を増やすことで子育て・介護に配慮した(再掲)(総)	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(再掲)(総)	
103	1	1.1	(3) ③																			機構から提示される案件を周知した。(教)	教:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教)	
104	1	1.1	(3) ③																			第4回男女共同参画推進委員会が審議した結果、人事・労務係の学内サイトに機構の該当ページにリンクを貼ることになった。(企)	企:A	B		・本年度整備した学内周知方法を継続する。(企)	
105	1	1.1	(3) ④																			校長裁量枠での採用が可能となった時点で検討する。現状では教育体制整備の人員枠に到達していない。(教) 検討していない。(機) 過去に任期付き外国人教員採用実績あり(電) 教員公募を実施する場合、日本人に限定することはしていない。(制) 該当なし。(生) 該当なし(材) 特に検討していないが、公募の際に外国人が応募することは可能である(文) 検討していない(理)	教:C 電:B 制:A 生:C 文:B 理:D	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・教員公募を行う場合は日本人に限定しない。(文) ・特段の理由があれば検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う。(電) ・次年度も継続する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・新規採用の予定なし(材)	
106	1	1.1	(3) ⑤																			豊橋技科大「高専連携教育研究プロジェクト」に1件申請し1件が採択された。また長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に3件申請し2件が採択された(教) 該当なし。(機) 過去当学には2名の高専教員が交流で配置され、また1名が他高専に交流で派遣実績あり。年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を実施中である。(電) 「高専連携教育研究プロジェクト」に申請した。(制) 長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に茂木准教授が本年度採択された。(生) 長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」採択 佐々木助教(材) 実施していない(文) 令和元年度に孤田准教授が豊橋技術科学大学「高専連携教育研究プロジェクト」に採択された。また、平成30年度に沖田助教が高専間人事交流により有明高専へ派遣済み(理)	教:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:C 理:C	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・次年度も連携を検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を継続する。(電) ・次年度も共同研究等の交流を促進する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
107	1	1.1	(3) ⑥																			各学科で把握している。(教) 該当なし。(機) 新任教員研修に昨年度採用1名派遣。(今年度は開催がなかったが)全国高専フォーラムにも従来から積極的に参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている。(電) 「全国高専著作権セミナー」を受講した。(制) オンラインで行われた研修に参加した。(生) 該当なし(材) オンラインで行われた新任研修に1名、学生支援担当教職員研修に1名、男女共同参画研修会に3名が参加し、高専フォーラムでは2名が発表を行った(文) 全国高専フォーラムに参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている(理)	電:A 制:A 生:A 材:D 文:A 理:A	A		・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・継続(文) ・次年度も引き続き実施する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・次年度も全国高専フォーラムにも従来から積極的に参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を計画。(電) ・次年度も教員研修に参加する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
108	1	1.1	(3) ⑥																			予定通り2回実施した。Moodleの使い方に関する追加会議を3月に実施する予定。(企)	企:A	A		・引き続き実施する。(企)	
109	1	1.1	(3) ⑥																			該当なし。(機) 本年度該当なし。(生) 九州大学に周先生を派遣(材) 派遣していない(文) 該当なし(理)	生:C 材:A 文:C 理:C	D		・希望者があれば検討する(文) ・派遣を検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グリーン: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				令和2年度 自己点検評価書													記入担当者報告用データ		担当者 評価		項目別 評価		事項別 評価		次年度へ向けての対応(担当者データ)		
1	2	3	4	教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書部長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	担当 評価	項目 評価	事項 評価	対応	
110	1	1.1	(3) ⑥					○							○	○	○	○	○	○	○		教:A 機:A 電:A 制:A 生:C 材:A 文:C 理:A	B		・専攻科主事を主担当にするのが適切と思われる(企) ・積極的な活動を促す(文) ・ISATE2021での発表論文を投稿中。(理) ・積極的な参加を促す。(機) ・次年度も専門研究だけではなく、工学教育関係分野も含め、積極的に参加を推奨。(電) ・次年度も国際会議の発表を推奨する。(制) ・次年度も実施予定(生)	
111	1	1.1	(3) ⑦					○														○	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・久留米工業高等専門学校表彰委員会規則に基づき継続実施する。(総)	
113	1	1.1	(3) ⑦					○															教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)	
114	(4)教育の質の向上及び改善																										
115	1	1.1	(4) ①					○							△	△	△	△	△	△	△	○	教:A 機:A 生:A 材:A 文:B 理:A	A		・本年度100%に到達しており、次年度も100%となるよう教務委員に依頼した。(教) ・モデルコアカリキュラムへの対応を考慮し、Webシラバスに記載している。(機) ・ICTを活用している。Teamsを用いた遠隔授業を行った。また、CBTIに参加している。(生) ・モデルコアカリキュラムへの対応を行っている。詳細な対応状況はwebシラバスに記載している。(材) ・点検・改善している(文) ・実施している(理)	
116	1	1.1	(4) ①					○															教:A	A		・和泉先生が中心となって対応している。(教)	
117	1	1.1	(4) ①					○							△	△	△	△	△	△	△		教:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・非常勤を含む全教員がteamsを用いた遠隔授業を実施した。(教) ・CAD演習、機械要素設計実験、機械工学実験(FEMIによる弾性解析)などで、ICT活用教育に対しては十分に取組みを行っている。(機) ・ICTを活用している。Teamsを用いた遠隔授業を行った。また、CBTIに参加している。(生) ・CBT問題作成に参加し、実施。 Teamsを使った遠隔授業実施、課目によっては遠隔での試験も実施した。(材) ・ネットアカデミーを利用した学生の自立した学習に関して進捗状況を把握している。また今年度は遠隔授業を行ったために、ICTの活用が大いに進んだ。(文) ・化学でCBT問題作問中。また、前期はTeamsによる遠隔授業を実施。(理)	
118	1	1.1	(4) ①					○															教:A	B		・前期に遠隔授業に関する会議を年度当初に実施した。教員の表彰も年度内に行われる予定である。(企)	
119	1	1.1	(4) ②					○							△	△	△	△	△	△	△		教:A 機:A 生:C 材:A 文:C 理:A	A		・K-SECの事例を全教員に周知した。(教) ・各教員が問題を共有化し、状況等整理した。(機) ・該当なし。(生) ・材料分野の教材共有ネットワークに参加している。今後教材共有化のネットワークを活用することを検討する。(材) ・該当なし。(文) ・1年生向けの数学補習指導において、鈴鹿高専と共同作成した教材を活用している。(理)	
120	1	1.1	(4) ②					○																D		・案内がなかった(教)	
121	1	1.1	(4) ①					△							○	○	○	○	○	○		教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・シラバスに記載し実施している。(教) ・シラバスに掲載している。(機) ・シラバスに記載し実施している(電) ・シラバスにループブックによる達成目標を具体的に記載し、公開することにより共有した。(制) ・webシラバスに記載している。(生) ・シラバスに記載し実施している。(材) ・webシラバスに記載し実施している。(文) ・シラバスに記載し、実施している。(理)		
122	1	1.1	(4) ②					△							○	○	○	○	○	○		教:A 機:A 電:B 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・教員の相互授業参観を全教員が実施することにより共有化を図った。また、ベストティーチャー賞も創設し、後期に表彰することにより情報共有を図る。さらにシラバスでアクティブラーニングに対応している表記を追加した。(教) ・一部の授業で導入している。(機) ・専門科目である1年、2年の少人数教育に特化した演習科目において導入を進め、一定の成果を得ている。またその成果は適宜内外に発信をしている。(全国高専フォーラム等)(電) ・授業で積極的に導入した。また、教員の相互授業参観を通して、情報を共有した。(制) ・授業の一部で用いられている。(生) ・一部の授業で取り入れており、Teamsを使って情報共有している(材) ・リベラルアーツ特論を中心にアクティブラーニングは実施されている。また歴史の授業で論述問題の解答を交換して書き直すアクティブラーニングを実施し、その授業の報告を現在投稿中である。(文) ・リベラルアーツ特論1、2で実施中。(理)		
123	1	1.1	(4) ②					○															教:B	B		・CBTを用いた学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査(追加)	
124	1	1.1	(4) ②					○															教:A	A		・教務システムの開発が中止され、現状の本校のシステムの運用を続けることとなった。(教)	
125	1	1.1	(4) ②					△							○	○	○	○	○	○		機:A 電:B 生:A 材:D 文:A 理:D	B		・教育研究センターで機械加工技能講習を実施予定だったがコロナで実施できず。(教) ・9月に3次元CADの認定試験(CSWA)、12月に3次元CAD利用技術者試験を実施した。(機) ・ポスターの掲示により申請時期、準備の喚起をしている。また参考書などを学科内学生自習室等で閲覧できるよう開示している。資格取得者対象の表彰制度も検討している。(電) ・進路資料室に参考書を置き、学生が閲覧できるようにした。(制) ・QC検定や危険物甲種の実験を奨励している。(生) ・該当なし(材) ・例年通り支援を行っている。(文) ・該当なし(理)		
126	1	1.1	(4) ②					○							△	△	△	△	△			専:D 生:C 材:D	D		・令和2年度後半についても未実施。9月末までの開催が困難であることや予算措置がない点考えた場合、次年度以降も実施しない方向で検討中(専) ・該当なし(機) ・本年度は該当なし。(生) ・該当なし(材)		
127	1	1.1	(4) ②					△							○	○	○	○	○	○		機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 理:A	A		・各学科での実施に委ねている。(教) ・CAD/CAM/CAEに加えて、CAD/CAM/CAEにより設計、製作したものの実証実験までを行っており、それによる技術者としての実務能力向上をめざすことを特色とする機械要素設計実験を実施した。(機) ・エネルギー、エレクトロニクス、プラクティカルコミュニケーションの3本柱を掲げ、電気電子演習I、IIなど専門の実践教育科目を少人数教育で実施。専門科目教員が早期に低学年学生に指導し、コミュニケーション力の活用も推進。また今年度より1年～3年生に電気電子演習1～3を展開し3ではキャリア教育も導入。また実験科目ではWith コロナ時代を見据えたソーシャルディスタンスを主眼に開いた取り組みを試行中(電) ・情報科学・工学のほか、制御・電気電子分野の専門科目も修得させており、幅広い知識や能力を身に付けさせた。情報系専門科目については、基礎から応用まで、深い知識や能力を身に付けさせた。(制) ・1～5年まで継続する学生実験のレポート指導を充実させると共に、グループで機械を動かす4年物化学実験では、役割制を導入しチームワーク力の育成をめざしている。(生) ・材料システム工学科として新たなカリキュラムを組み立て、「材料のゆりかごから基場まで」を教育する事としている(材) ・1年生向けの数学補習指導(数活)を実施している。また、リベラルアーツ特論(数学)において、各テーマごとにグループ学習を行い、その成果を高専シンポジウムなどで発表予定。(理)		
128	1	1.1	(4) ②					○							△	△	△	△	△	△		教:A 機:A 専:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・成績評価の根拠とした答案、レポートの10年保管することを教務留意事項に明記するとともに、教務委員経由で各学科教員に周知した(教) ・各コースで実施・保管されている関連資料と別に、専攻科で実施したアンケートやデータ、資料等は専攻科サーバーにデータを蓄積している。(専) ・各種データおよびファイルをOffice365 OneDriveに随時アップしている。(機) ・学科サーバーを構築し、教育活動の全データを蓄積している。(生) ・学科サーバーを活用し、デジタルデータとして10年間保管を行うようになっている。教務関連データはブルーレイディスクにて保管している(材) ・データや資料の収集と保管を行っている。(文) ・データの収集・蓄積を実施している。(理)		
130	JB	1.1	(4) ②																			材:A	D		・JABEEをやめるのであれば、来年度以降は削除してください(材)		
132	1	1.1	(4) ②					○														○	教:A	A		・昨年度から実施している。(教)	
133	1	1.1	(4) ②					○															教:A	A		・アンケートの集計を早い、担任のほか自己評価検討委員会委員にも依頼して回答率を宝城させた。(企)	

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー：昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

[最左欄] 数字欄:年度計画 認:機関別認証評価で指摘された事項(○:書面指摘 △:訪問調査時指摘) 外:外部評価委員会で指摘された事項 JB:JABEEで指摘された事項	教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学連携C長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	
																									1
134	○																				授業評価アンケートおよび教員相互授業参観によるPDCAを実施している。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)
135				○							○	○	○	○	○						JABEEの修了認定で担保している。(専) ・現段階では検討していない。(機) ・専攻科ではJABEE修了時に各科目及び系統的な達成度評価をしている。本科でも同様な評価を検討中(電) ・継続検討中である。(制) ・JABEE修了時に達成度評価をしている。(生) ・卒業生のアンケートを実施(材)	専:A 電:A 制:C 生:A	C		・継続していく。(専) ・内容を精査しながら継続(電) ・次年度も引き続き検討する。(制) ・次年度の継続実施(材)
136	○			○	○						△	△	△	△	△	△					・機構や他高専から配信されてくる各高専の効果的な取り組み事例やの情報を全教員に配信した。(教) ・令和2年度後半についてもコロナ感染症拡大防止により参加を未実施。次年度は九州・沖縄地区高専フォーラムへの参加を検討していく。(専) ・各種案内は総務係から全教職員に通知されている。(企) ・学会、シンポジウム、フォーラムなどを通じて他高専との情報共有を進めている。(機) ・学会、シンポジウム、フォーラムなどを通じて他高専との情報共有を進めている。(生) ・CBT、教材共有、他高専との交流で得られた知見を学科会議、Teams等で情報共有している。(材) ・全国高専英語教育学会や高専フォーラムを通じて情報共有を進めている。(文) ・高専フォーラム、高専シンポジウム等での他高専との情報共有を進めている(理)	教:A 専:C 企:A 機:A 生:B 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き実施する。(企) ・次年度も同様な取り組みについて実施の可能性について検討する。(専) ・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
137						△															・新型コロナの影響ならびに機関別認証評価の訪問調査と日程が重複することを理由に本年度は中止することとなった。(企)	企:C 総:A	D		・幹事監査、機関別認証評価の受審年度を考慮した計画に基づき、次年度実施する。(企)
138											○	○	○	○	○						・令和2年度前半で専攻科1年生の創造工学実験についてコースを超えて検討会をオンラインで実施した(後半は開講無し)。(専) ・5年の機械要素設計実験で、ウイング、風車などを自由度をもたせて設計、試作をさせている。(機) ・本科では低学年から専門演習を導入しコミュニケーション力や創造性の涵養に努めている。専攻科では創造工学実験(必修科目)を特色科目として継続実施。また卒業研究成果を積極的に各種コンテストに応募(電) ・「創造プログラミング演習」および「卒業研究」で創造性を育む授業を開講した。(制) ・テーマ企画から実験遂行、報告書作成までを行う創造工学実験を実施している。(生) ・創造工学実験において、他学科学生とのディスカッションの時間を設け、実施した。(材) ・各教科でグループ学習、協同学習、プレゼンを含む授業を行い、創造性を育てている。(文) ・リベラルアーツ特論1、2において、グループ学習やプレゼンを含む授業を実施している。(理)	専:A 電:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・継続して実施していく。(専) ・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・今後も本科で取り組んでいる低学年からの専門演習教育を通してコミュニケーション力や創造性の涵養に努める。専攻科では創造工学実験(必修科目)を特色科目として継続実施(電) ・次年度も該当科目を開講する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
139				○							△	△	△	△	△						・専攻科1年生の創造工学実験にてオンラインにて共同実施した。後半部では該当する科目は無し。(専) ・創造工学実験において、共同での取り組みを実施した。(機) ・創造工学実験において実施した。(生) ・創造工学実験において、他学科学生とのディスカッションの時間を設け、実施した。(材)	専:A 機:A 生:A 材:A	A		・継続して実施していく。(専) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
140											○	○	○	○	○						・学会、講演会などに参加し、最新の情報を入手し専門科目の授業に取り入れ、教育の質の改善を図った。(機) ・研究の推進及び学会参加等外部での活動および成果の学会発表、論文発表などを通して研究の質の確保、学生の教育に資している。国際会議等への参加(教員学生とも)も継続して積極的に動員している(電) ・「卒業研究」の指導に教員の研究活動を促した。(制) ・学会発表、論文発表などを通して継続的に改善しており、研究成果は、卒業研究や専攻科研究における学生指導に反映されている。(生) ・卒業研究、専攻科研究において外部発表を積極的にしている。(材) ・各教科が研究の結果得られた知見を教育に生かしている。科研費研究をもとに行った英語スピーチ活動により学生のスピーキング能力を向上させた。(文) ・学会等に参加し、最新の情報をリベラルアーツ特論1、2や授業に反映している。(理)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:B	A		・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・今後も、研究の推進及び学会参加等外部での活動および成果の学会発表、論文発表などを通して研究の質の確保、学生の教育に資する。国際会議等への参加も継続して積極的に動員している(電気電子)質の向上に努める。(電) ・次年度も継続的に実施する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
141				○																	・例年、専攻科1年生が夏季休暇中での実施、9月末での報告会を実施しているが、令和2年度はコロナ感染症拡大防止により未実施とした。(専)	専:C	-		・継続して実施していく(専)
142				○				○													・令和2年度は実施無し。令和5年度の「九大との連携教育プログラム」の運用を目指した検討会を行う予定である。(専)	専:C 産:B	D		・継続して検討していく。(専) ・継続して実施していく。(産)
143				○			△				○	○	○	○							・専攻科開講の情報系科目内において実施済。この他、令和5年度の「九大との連携教育プログラム」の中でのICT科目の導入検討を進めている。(専) ・情報セキュリティの内容を授業に導入した。(機) ・現在、情報教育において高専機構準備の情報セキュリティ教材(K-SEC)を複数学年で積極的に活用している等、セキュリティを含む情報教育について教育内容の高度化に積極的に取り組んでいる。(電) ・サイバーセキュリティ人材育成事業に申請した。(制) ・情報セキュリティの内容を授業に導入している。(生) ・情報リテラシー、情報処理の授業で実施、(材)	専:B 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 材:A	A		・継続して検討していく。(専) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・今後も高専機構準備の情報セキュリティ教材を複数学年で積極的に利用し、それを通して最新の知見の陶励に努めるとともに更なる展開の可能性も探査する。(電) ・次年度は、機構の情報セキュリティ教材を導入する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
144	外																				・ベトナムホーチミン校工科大学、マレーシア工科大学国際学院(MJIT)とのMOU締結の準備を継続中である。 令和2年度は久留米工業大学ならびに早稲田大学と連携強化にむけた協定継続を行った。また、九州大学の学部改組、新学科設置について許認可されたことにより、「九州大学工学部と久留米高専との連携教育プログラム」の令和5年度運用に向けて協議会を実施し、教育課程表の構築や学納金について継続的に検討を行ってきている。(専)	専:B	B		・継続して検討していく。(専)
145				○			△														・高等教育コンソーシアム久留米(久留米工業大・久留米工業大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)を組織して単位互換協定を結んでいる。また久留米工業大学との包括連携の継続をしている。(教) ・例年、4大学1高専にて10月から共同講義を開催しているが、令和2年度はコロナ感染症拡大防止により未開催となった。次年度の開催について検討中である。(専)	教:A 専:B	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も継続して実施していく。(専)
146				○																	・令和5年度からの「九州大学工学部と久留米高専との連携教育プログラム」運用に向け、協議会や教育課程表の検討を行ってきている。(専)	専:A	A		・継続して検討していく。(専)
147											○	○	○	○	○						・豊橋技術大と学科教員が共同研究を行っている。(機) ・学科教員が豊橋技術大教員と共同研究を行っている。(電) ・「高専連携教育研究プロジェクト」に申請した。(制) ・長岡技術科学大学との共同研究を実施している。(生) ・ST-Gigakuへの参加(材) ・実施していない。(文) ・今年度は実施していない。(理)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:C	A		・実施予定はない。(文) ・次年度も検討する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・学科教員が豊橋技術大教員と共同研究を行っている研究を継続するとともに新規テーマ等連携の拡大展開の可能性を探査する。(電) ・次年度も引き続き参加を促す。(制) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
148				○																	・インターンシップを活用した推薦制度を平成31年3月から試行的に実施してきている。新型コロナ感染症拡大状況にもよるが、令和2年度についても同様に3月に実施を予定している。(専)	専:A	A		・3月の九大総理工でのインターンシップは希望学生が出た場合は定例的に運用されることが決まっており、また令和5年度より「九大との連携教育プログラム」の運用が開始されるため、本項目は削除を依頼。(専)
149							○				○	○	○	○	○						・CAD演習、機械設計製図、機械要素設計実験などCAD/CAEを用いる授業をIT演習室で行っており、教員用の授業支援システムなども有効に利用している。(機) ・複数の専門科目(特に情報関係科目)で積極的に活用している。(電) ・プログラミング、CAD、数値計算法等の電子計算機に関わる授業で活用した。(制) ・情報処理の授業や実習データの処理はもとより、生物学、産業財産権等でも活用している。(生) ・情報処理の授業、応用設計製図の授業、学生実験・卒研のデータ整理でL1L2教室を活用している(材) ・成績や出欠の管理に活用している。(文) ・成績や出欠の管理に活用している。(理)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・一般科の専門科目(特に情報関係科目)で積極的に活用しており継続して有効活用を行う。(電) ・次年度も引き続き活用する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
150				△							○	○	○	○	○						・各学科での取り組みに委ねている(教) ・学科会議等で学生の状況等、連携を行っている。(機) ・例年一般科目所属の1年、2年担任と専門学科教員の情報交換の会議を定期的に実施し学生の教育指導に供しており、今年度も実施予定。また現在1年担任(一般科)とキャリア教育について連携し1年HRにおいて2回の上級生による進路講演会を実施した。また現在低学年担任と密な連携を図るためTeamsの活用を検討中(電) ・学科会議で担任と学生指導について連携した。(制) ・一般理化学系と連携し、4年応用化学実験、専攻科研究等を実施している。また、一般文系・理科教員と合わせて担任懇談会を行っている。(生) ・定期的な担任情報交換会議、卒業研究において、一般科目(理科)の教員と協力して卒業研究を行っている(材) ・専門学科の会議に1、2年生の担任が出席し、学生の状況を報告している。(文) ・学級担任を専門学科に派遣し、学科運営会議でクラスの状況を報告している。(理)	機:A 電:B 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・一般科目との有機的連携は最重要事項であり、今後も所属の1年、2年担任と専門学科教員の情報交換の会議を定期的に実施し学生の連携や情報共有に努めると共に学生にとって有効な学習を目指して意見交換等を積極的に進めていきたい。(電) ・次年度は、会議を年4回増やす(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
151											○	○	○	○							・研究において、各学科が管理する研究設備を相互に利用している。また各学科の教員の専門知識について、相互に質問するなどしている。(機) ・令和元年度カリキュラムより、概論等の他学科の内容を学んだり、本学科の教員が他学科の学生に電気電子専門科目を教授する学科横断型科目の整理/新設を行い今年度2年目に入っている。(電) ・学科横断科目の授業で相互に教員を派遣し連携した。(制) ・学科横断科目の授業で相互に教員を派遣し合っている。(生) ・電気電子材料、機械材料学、物質工学概論を材料士の教員が担当している。(材)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A	A		・今年度と同様に実施予定。(機) ・今後も学生の教育において概論等の連携を行っていく。その際得られたノウハウや検討事項は積極的に共有を行いたい。さらに近年、機械学習等、分野を超えた研究テーマがあり、高専のスケールメリットを活かして1+1が3にもなるような連携の可能性を模索していきたい(電) ・次年度も引き続き実施する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・R3年度からは生化とも学科横断の科目を持つ(材)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

Table with columns for evaluation items (e.g., 教員間連絡ネットワークの強化検討), evaluation criteria (e.g., 機:A, 材:A), and evaluation results. Includes a header section for '記入担当者報告用データ' and a footer section for '(5) 学生支援・生活支援等'.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナウイルスにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレン: 昨年度からの変更項目

[最左欄]		令和2年度 自己点検評価書													記入担当者報告用データ		担当者報告用データ		次年度へ向けての対応(担当者データ)					
学年	学期	教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	担当	項目別評価	事項別評価	内容
176	1	1.1	(5)	①	学生向け各種講習会(ビジネスマナー・携帯電話利用・暴力団排除等)の実施		○					○										学:A	A	・例年通り各種講習会を実施予定だが、1年生対象の「暴力団排除教育」については廃止する。(学)
177	1	1.1	(5)	①	入学料・授業料免除の情報提供と実施		○															学:A	A	・例年通り実施した。(学)
178	1	1.1	(5)	②	奨学生募集説明会の開催		○															学:A	A	・例年通り実施した。(学)
179	1	1.1	(5)	②	各種奨学金に関する情報の集約及び情報提供		○															学:A	A	・例年通り実施した。(学)
180	1	1.1	(5)	②	就職・進学等の進路指導の実施							○	○	○	○	○						機:A 電:A 制:A 生:A 材:A キヤ:A	A	・就職は、学科の就職担当教員を中心として適宜卒業研究指導教員などが加わり個々の学生に対して指導している。進学については、5年担任教員を中心に指導している。(機) ・例年、学科主催のキャリアアップセミナー(後期中間試験後に1年から4年を対象に地元で活躍するOB/OGの講演会を実施)を実施している。今年度はコロナ対策で本校OBの大学教員による遠隔での講演会を実施した(1月に二回)。また4年生への進路調査、低学年にも進路に関するアンケートを計画。昨年度より3年の「電気電子演習3」の一部にキャリア教育の導入。(電) ・4年生、5年生に対して、就職主任および担任が、就職・進学等の進路指導を全体および個別に実施した。また、進路報告会に低学年学生を参加させて状況の理解と意識向上を図った。(制) ・就職支援は就職主任が実施し、進学は、5年担任が実施している。(生) ・就職担当、担任、各研究室教員において就職・進学の指導を行っている。(材) ・前期の就職指導では、休校期間中において各学科オンラインでの指導を含め実施した。(キャリア支援室) ・進学のための学習資料を各学科の進路資料室や参考書、資格取得に関する図書などを購入し各学科に、各学科の進路資料室などに置き学生が参考にできるように学生への情報提供の継続的充実をはかった。(キャリア支援室) ・後期に、4年生、5年生を対象に仕事に関する法律知識を学ぶため、外部講師を招きオンラインで校内の各ホームルームに配信し、コロナウイルス感染防止に配慮しつつセミナーを実施した。(キャリア支援室) ・各学科の5年生担任が進学に関する指導を主に担当し実施。各学科のキャリア支援室長補(就職主任)が就職希望の学生の就職希望先への応募書類の準備指導、面接やオンラインでの面接指導をおこなった。学生生活支援係の支援を得ては就職に関する書類準備等の支援を行った。(キャリア支援室) ・10月のオンライン全校集会で進路に関する講義を実施した。(キャリア支援室) ・従来、企業担当者来校により求人情報や卒業生及び修了生の情報など対面の面談で対応していたが、コロナウイルス感染症防止対策により、これらはオンラインで実施する旨、本校ホームページで周知して、オンラインでの企業面談を実施した。(キャリア支援室)
181	1	1.1	(5)	③	就職・進学状況の把握							○	○	○	○	○						機:A 電:A 制:A 生:A 材:A キヤ:A	A	・就職担当教員、5年担任が状況の収集を行い、学科会議で情報共有している。(機) ・就職は就職主任、進学は5年担任を中心に丁寧且つ真摯に指導や情報把握を行い、学科会議で進捗状況の学科内の情報共有に努めている。(電) ・定期的に開催される学科会議での現状報告により把握した。(制) ・就職・進学の合同学科会議で報告され、全教員が把握している。(生) ・5年担任、就職担当、各研究室教員において就職・進学の状況把握を行っており、学科会議やTeamsで情報の共有を行っている。(材) ・進学にかかわる5年担任とキャリア支援室長及び教務担当者のTeams(チーム名は「大学編入学情報共有」)を教務係で設定し、各学科に共通する編入学の事項や、状況の相互把握に活用した。(キャリア支援室) ・就職情報はキャリア支援室長補(就職主任)が企業と面談する場合、複数の学科が同席して行うことで重複したやり取りを避けるとともに、求人内容について情報共有化をしている。7月末頃より学内で求職者数などの情報を学科ごとに取りまとめ学生生活支援係で把握・共有している。(キャリア支援室)
182	外	1.1	(5)	③	業種別および地域別就職先の調査・分析(H29外部評価委員会)							○										キヤ:A	A	・教務主事の支援を得て例年より詳しくまとめた。(キャリア支援室)
183	外	1.1	(5)	③	地元企業への就職者を増やす方策の検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:A	A	・昨年度コロナウイルス感染症予防対策で開催中止となったが、「テクノネット久留米企業説明会2021」の開催への協力を継続する。(キャリア支援室)
184	外	1.1	(5)	③	外国人留学生の日本国内就職支援方策検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:C	C	・令和2年度については進展なし。(キャリア支援室)
185	1	1.1	(5)	③	進路選択支援に関する他高専の取り組み事例調査							○										キヤ:A	A	・春以降のコロナウイルス感染拡大に著もない延期していた学部高専のキャリア支援室関係者との情報交換をオンラインで行い他校でのキャリア教育について調査した。カリキュラムの特定科目に進路関連の内容を盛り込んでいること、各学科の就職担当教員と独立して専任の役割を設けてバックアップなどを回っている事例を知り、今後の本校での展開に参考になる情報を得た。(キャリア支援室)
186	外	1.1	(5)	③	大学進学者へのサポート体制検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:B	B	・各学科の進路支援の部屋に編入学に関する参考書などを順次配置することを継続実施した。(キャリア支援室)
187	1	1.1	(5)	④	学生寄宿環境改善のための施設・設備の整備計画策定・予算要求																	寮:A	A	・寮内放送設備の不具合を直した。また、女子寮浴室水栓補修等随時補修を行った。さらに、男子寮、女子寮ともに洗濯機・乾燥機を新規に導入した。新型コロナウイルス感染症防止対策として食堂内にパーティションを導入の予定である(寮)
188	1	1.1	(5)	⑤	学生の自主的学習を進める上での相談・助言の体制整備		△					○	○	○	○	○	○					機:A 電:B 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	B	・各学科での取り組みに委ねている(教) ・特にオフィスアワーを決めてはいないが適宜対応している。(機) ・オフィスアワーは特に設けていないが、日常時間で各教員が必要に応じて対応。特に今年度はteamsやforms等の遠隔授業システムを積極活用することにより、各講義ごとにリアルタイムに電子的なアンケートを迅速に採ることができ、従来は得ることができなかった多くの学生の疑問や質問を得るハードルが格段に低くなり、学生個々に対する的確かつ迅速な指導や助言が可能となった(電) ・授業内容については各授業担当者、全体的な学習については各担任が相談を受けたり助言をした。また、各授業の相談・助言は、随時、対面やTeamsで受け付けた。学科会議で、特に指導が必要な学生について情報共有した。(制) ・オフィスアワーを設定している。また、教員が在室している場合はいつでも実施している。(生) ・卒研の時間をオフィスアワーとして設定し、学科内の電子掲示板に掲示し学生に周知して時対応している。(材) ・各教員で相談・助言を受けている。(文) ・各教員ごとに対応している。(理)
189	1	1.1	(5)	⑤	学生の主体的学習を増やすための方策検討							○	○	○	○	○						専:A 機:A 電:B 制:A 生:B 材:A 文:A 理:A	B	・各教科において学習単位を満足するレポートが課されており、その実施において主体的学習を行っている。主体的学習を行ったかのチェックアンケートを教務主事とともにFormによる実施へ変更し、実施した。(専) ・5年生の専門必修科目・機械要素実験において、個々の学生が設計したハンドルからグループ代表のハンドルの選定を任せ、そのハンドルをグループのハンドルとして、製作し強度試験を行い、所定の強度にならなかった場合は、原因の究明、改善点の抽出をグループ討議により、行わせている。これらの過程で学生は、座学や演習で学んだ知識を用いて議論する。この過程を通して、学生に主体的学習を促している。(機) ・学科内に学習室を設置し、書籍等も配置し、学生の自主的学習に供している。また昨年度より各HRRに教習文庫を設置し、図書館の廃棄や学教科長等の選んだ書籍を置き、HRRの自主学習ができる環境を構築すべく漸次整備中。またteamsによる学問の質問等にも対応しており、迅速な学習支援が可能になった(電) ・H31のカリキュラム変更により、学習単位の科目を5科目に増やし、自学自習の機会を増やした。また、各授業において、課題レポートを提出させるなど工夫した。(制) ・空き時間など教室等空きスペースを開放し、自習の機会を与えている。(生) ・高専高度化推進事業「学習支援体制の強化」において、上級生をTAとする勉強会を実施した。(生) ・実験レポートの作成にあたって、図書館の活用を促し、自主的に学習するように仕向けている。(材) ・今年度はコロナ増ランニングコモンズを十分活用することができなかったが、可能な範囲でレポート作成指導、協同学習、グループ活動、多読、IoTを活用した学習など実施している。(文) ・リベラルアーツ特論1、2および1年生向けの数学補習指導で実施している。(理)
190	1	1.1	(5)	⑤	外国留学に対する支援の実施		○															教:A 文:A	A	・海外留学の場合の夏から次の夏までの2年度に渡って休学となり、規則上は卒業が2年遅れとなるが、留学前後で出席と成績を引き継ぐことで1年遅れて済むようにしている。(教) ・コロナ禍で留学は流動的な状況ではあるが、「トビタテ！」を希望する学生の相談に応じるなど支援している。(文)
191	1	1.1	(5)	⑤	外国人留學生に対する学習・生活面の支援		○	○				○	○	○	○							教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:C	A	・本校国語教員が担当する留學生向け科目の開講および留學生対象の日本語検定試験対策の授業(年間60時間)を実施している。また、外国人留學生委員会を定期的に開催し、情報交換している。今年度は、コロナの影響で授業開始までに来日できなかった2名の学生に教科書をPDF化(AIP設定)し、データで送付した。クラスメイトから留學生の学習を支援する学生をチューターとして選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。また、留學生の進路に関して、大学・企業選びや各種手続き等のノウハウを共有、蓄積している。(教) ・寮生会による寮寮を留學生と日本人寮生との親睦を深める予定であったが、コロナ対策のため中止となった。(寮) ・クラスメイトから留學生の学習を支援する学生を選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。(機) ・担任教員やチューター学生を中心に学習・生活面の支援を積極的に行っている。なお一昨年度、学科で初めて留學生の就職があり、企業選びや各種手続き等のノウハウを蓄積することができた。(電) ・担任およびチューターが、定期的に、また必要ときに外国人留學生に対して学習や生活面で指導した。(制) ・外国人留學生の3年アンジュリー、4年アズミガ、5年シンディについて、担任および相談員で支援している。アンジュリーに対しては、生物応用化学基礎の科目で、低学年の復習を生化教員で連携して教授し、合わせて日本語の会話と文書作成を指導している。(生) ・今年度は該当なし(材)
192	1	1.1	(5)	⑤	マイクロソフト包括ライセンスの利用																	情:A	A	・Microsoft Teamsの活用により遠隔授業が実現できた。(情)
193	1	1.1	(5)	⑤	学級における情報セキュリティ委員(学生)の新設・運用方法検討		○															学:A	A	・運用方法は総合情報センター長に任せている。(学)
194	認	1.1	(5)	⑤	再試験に関する規程作成(追加)		○															教:A	A	・規定を作成した。(教)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレン: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘 △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				教務主事	学生主事	学務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価
195	1	1.1	(5) ⑥																			・今年度はコロナで実施できなかった。(教) ・新型コロナウイルスのため、九州地区学生会交流会を実施できず。(学生主事) ・「九大との連携教育プログラム」に関連した学生を共同にて指導するための研究者マツテグ説明会を12月に実施し、3月にシンポジウムを開催する予定としている。(専) ・久留米市主催のくめ創業支援ネットワークの一環として、学生ベンチャー創出のための学生コミュニティの参加を検討中。(産)	学:D 専:B 寮:D	-	・次年度も引き続き実施する。(教) ・学生会が九州沖縄地区、全国の学生会交流会に参加する。(学) ・継続して実施していく。(専)
196	1	1.1	(5) ⑥																			・例年通り実施した。(学)	学:A	A	・例年通り実施する。(学)
197	1	1.1	(5) ⑥																			・後期に実施した。(学)	学:A	A	・次年度も実施する。(学)
198	1	1.1	(5) ⑥																			・コロナで延期となった。ボランティア参加希望学生はいなかった。(教) ・該当学生なし。(専)	教:A 専:D	-	・次年度は本事項を削除。(教) ・次年度は本事項を削除依頼。(専)
199	1	1.1	(5) ⑥																			・新型コロナのため、学生会と学生主事室の合同会議は数回のみ実施し、それ以外はメールで連絡した。(学)	学:B	B	・例年通り学生会と学生主事室との合同会議を実施する。(学)
200	1	1.1	(5) ⑥																			・例年通り実施した。(学)	学:A	A	・例年通り実施する。(学)
201	認	1.1	(5) ⑥																			・今年度初めていじめに関するアンケートを実施した。(学) ・前期は学校適応感尺度調査を実施し、自殺親和性が高い学生には担任面談を実施した。後期はHyper-QUを実施し、要支援層および学校生活意欲が特に低い学生に担任面談を実施した。いずれのアンケートについても、面談報告書の内容から必要と判断される場合は、担任と連携してカウンセリングにつなげている。(相)	学:A 相:A 寮:D	B	・各講習会後のアンケートを実施する。Office365を活用したアンケートを実施する。(学) ・従来どおり、本科では前期・後期1回ずつ実施する。専攻科は少なくとも1回は実施する。(相)
202	1	1.1	(5) ⑥																			・成績優秀者、課外活動で活躍したものの表彰は卒業時に実施予定、善行のあった学生2名を表彰した。(学) ・高専機構本部の優秀学生表彰として専攻科2年生を推薦した。(専) ・日本機械学会および日本設計工学会による成績優秀者の表彰を申請し、実施している。(機) ・卒業研究および専攻科研究論文発表会で、発表賞を退出し表彰している。また成績優秀者を選考し、卒業成績最優秀者に日本化学会九州支部長賞を、2位者に化学工学会九州支部長賞をもって表彰している。(生) ・成績優秀者を金属学会・鉄鋼協会九州支部長表彰に推薦している。(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	学:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:C 理:D	A	・例年通り実施する。(学) ・継続して実施していく。(専) ・専門学科で表彰されており、一般科目(文科系)単独での表彰の計画はない。(文) ・専門学科の該当事項であり、一般科目単独での表彰の計画はない。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度は、全国規模の表彰に推薦できないか検討する(材)
203	1	1.1	(5) ⑥																			・駐輪場の整備を検討中。(学)	学:C	D	・学生用駐輪場の整備を推進する。(学)
204	1	1.1	(5) ⑦																			・学校見学会において、寮生会が中学生および保護者を学生寮に案内し見学してもらうことでPRを図った。(寮)	寮:A	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
205	1	1.1	(5) ⑦																			・ゴミ分別回収、不要品リサイクル、寮内外の清掃を計画的に実施した。閉寮時には、居室の清掃状況を点検し、不十分な場合に清掃指導をする。また、不定期に居室施設状況を確認し、施設が徹底していない寮生を指導する。テーブルマナー講習会やヘルステックキャンペーンの実施により寮生の資質向上を図る予定であったが、コロナ対策のため中止となった。(寮)	寮:B	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
206	1	1.1	(5) ⑦																			・寮生会役員を中心に、ゴミ分別回収、食堂懇談会等を実施させることで、寮生会の自主自律を求めた。コロナ対策のため、避難訓練は教職員のみの開催とした。(寮)	寮:B	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
207	1	1.1	(5) ⑧																			・計画どおり令和2年度版を作成し、学生及び教職員に配付した。(学課)	学課:A	A	・令和3年度版を作成し、学生及び教職員へ配付する。(学課)
208	1	1.1	(5) ⑧																			・改革通り発行した。電子媒体での発行はアンケートの結果見送ることになった。(企)	企:A	A	・引き続き実施する。(企)
209	1	1.1	(5) ⑧																			・図書館だより第95号を発行 発行日:2020年12月9日(水)(図)	図:A	A	・(継続)図書館だより第96号を発行予定@2021Dec(図)
210	1	1.1	(5) ⑧																			・年4回の試験に合わせて、前期中間(7月)、前期末(10月末)、後期中間(12月末)、年度総合(3月)に成績表を保護者に送付する際に担任所見を記載している。(教)	教:A	A	・次年度も引き続き実施する。(教)
211	1	1.1	(5) ⑧																			・5月の後援会総会がコロナで中止となり、その際のクラス懇談会が実施できなかった。高専祭期間中の担任レベルでの懇談会は個別に実施した。保護者向けの進路説明会は、キャリア支援室で検討の結果、今年度はクラス単位で実施を検討することとなった。(教)	教:A	A	・コロナの状況を考慮しつつ、次年度も引き続き実施する。(教)
212	T.2 社会連携に関する事項																								
213	1	1.2	①																			・産学連携テクノセンター報による研究成果公表を行った。(産)	産:A	A	・産学連携テクノセンター報による研究成果公表に加え、各種イベントでの公表に努める。(産)
214	外	1.2	①																			・久留米市産業振興協議会「企業の成長支援」推進グループに参画や、テクノネット久留米の企画委員会、ならびに総会を通じて、久留米市のづくり支援事業における地域企業の掘り起こしを行った。(産)	産:A	A	・久留米市産業振興協議会「企業の成長支援」推進グループに参画し、久留米市のづくり支援事業における地域企業の掘り起こしを継続する。(産)
215	1	1.2	②																			・教務主事は、支援の要請がなかった(教)	教:C	C	・次年度も引き続き実施する。(教)
216	1	1.2	②																			・2月16日開催の「令和2年度第5ブロック研究・産学連携・地域連携合同会議及び第7回日本弁理士会九州会との交流会」にオンライン参加予定。(産)	産:A	A	・引き続き「令和2年度第5ブロック拡大研究推進ボード会議」に出席の予定である。(産)
217	1	1.2	②																			・機構本部 研究推進室からの推薦は無く、本校教員の研究シーズについての紹介・発表を行うことは出来なかった。(産)	産:B	D	・推薦があれば検討する。(産)
218	1	1.2	②																			・引き続き、産学連携テクノセンター重点プロジェクト室への若手研究者の活用を推進すると共に、地域連携多目的室の利用により研究環境の充実を図った。(産)	産:A	A	・引き続き、産学連携テクノセンター重点プロジェクト室への若手研究者の活用を推進すると共に、地域連携多目的室の利用により研究環境の充実を図る。(産)
219	1	1.2	②																			・外部資金に対する提案書作成へのアドバイスや添削などを実施。(産)	産:A	A	・継続して実施していく。(産)
220	1	1.2	②																			・昨年度、JSTジュニアドクター育成事業に有明高専、熊本高専と共に申請、採択され、「高専ハカセ塾」として久留米・周辺地区の小中学生育成事業3年目を実施中。また、地域の公設試験研究機関である久留米リサーチパークとの連携体制を強化した。(産)	産:A	B	・JSTジュニアドクター育成事業において有明高専、熊本高専と共に「高専ハカセ塾」として久留米・周辺地区の小中学生育成事業2年目を実施する。また、地域の公設試験研究機関である久留米リサーチパークとの連携体制を強化し、各種イベントに積極的に参加する。(産)
221	1	1.2	②																			・例年実施している産総研九州センターでのインターンシップはコロナ感染症拡大防止により中止とした。専攻科生と共に共同研究を実施している教員がいる。(専攻科主事) ・産業技術総合研究所九州センター及び日本弁理士会九州会との連携を推進した。(産)	専:B 産:A	B	・継続して実施していく。(専攻科主事) ・産業技術総合研究所九州センター及び日本弁理士会九州会との連携を推進する。弁理士会九州支部との交流会には参加の予定である。(産)
222	1	1.2	②																			・12月8日(火)、「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」がオンラインで開催された。(産)	産:A	A	・引き続き「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」に産学連携テクノセンターとしてブース展示を行い、企業からの技術相談対応を行う予定である。(産)
223	1	1.2	②																			・9月28日～11月30日にオンライン開催されたイノベーションジャパン2020大学見本市に参加し、材料システム工学科の佐々木助教が参加した。また、産学連携に関する情報発信及び収集並びに人的ネットワークの拡充に努めた。(産) ・実施していない。(機) ・本年度該当なし。(生) ・新型コロナウイルスのため中止(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	産:A 生:C 文:C 理:D	O	・引き続き、イノベーションジャパン2020大学見本市(東京)に参加し、産学連携に関する情報発信及び収集並びに人的ネットワークの拡充に努める予定である。(産) ・一般科目(文科系)に関連する分野で具体的などのような出展が考えられるのか検討する必要がある。(文) ・次年度検討する。(理) ・機会があれば必要に応じて実施する。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
224	外	1.2	②																			・12月23日(水)の運営委員会にてテクノネット久留米事業、久留米高専の研究・開発シーズの育成奨励の採択テーマ、内容等について報告した。(産)	産:A	A	・継続して実施していく。(産)
225	1	1.2	②																			・新型コロナウイルスの影響で今年度は実施できなかった。(機)		-	・新型コロナウイルスの影響で次年度も実施しない予定。(機)
226	1	1.2	②																			・一般社団法人日本ゴム協会九州支部と締結した連携・協力協定にかかる事業の一つとして、「ゴムの実践技術講座(実習)」を開催している。今年度はコロナのため実施していない。(生)	生:C	-	・必要に応じて行う(生)
227	1	1.2	②																			・コロナウイルスのため中止(材)		-	
228	1	1.2	②																			・研修会等の情報配信に努めているが、具体的な教員交流は個人・学科レベルで実施している(教) ・専攻科研究論文を指導している教員の内、数名は両技科大からの研究助成により研究連携を進めている。(専) ・豊橋技科大と学科教員が共同研究を行っている。(機) ・長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に専任准教授が本年度採択された。(生) ・長岡技術科学大学(佐々木)との共同研究を実施している。(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	専:A 機:A 生:A 材:A 文:C 理:D	B	・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・継続して実施していく。(専) ・一般科目(文科系)の場合、連携できる分野が限られているようであるが、できる範囲でやっていきたい。(文) ・次年度検討する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
229	1	1.2	②																			・令和2年度は協定継続に係る調印を行った。連携強化に向け、久留米工大主催「AI勉強会」に参加し、両校にて継続的に実施していくことを確認した。(専) ・具体的な効果的運用について検討中。(産) ・連携・覚書の内容を見直し、協定書を更新した。(総)	専:A 産:B 総:A	A	・継続して実施していく。(専) ・次年度以降も継続して検討していく。久留米工業大学主催のFD講演会等に参加し、同大学との連携を深める予定である。また、連携協定に基づく研究施設の共同利用等を推進することにより、教育研究に関する連携を深める。(産)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレー: 昨年度からの変更項目

Table with columns for evaluation items, categories, and scores. Includes rows for international exchange, career support, and general activities. The table is partially shaded in gray to indicate changes from the previous year.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレン: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

Table with columns for evaluation items, categories, and performance metrics. Includes rows for administrative tasks, budget management, and research activities.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載相当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グリーン: 昨年度からの変更項目

Table with columns for evaluation items, status, and scores. Includes rows for '教育環境の確保', '教室・図書館等学習環境の整備', 'キャンパス内の外灯の点検', etc.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレー: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
339	認 8.1	⑤										△	△	△	△						・毎年4月に実施していたが、本年度はコロナのため実施できず、次年度4月に実施する予定(教) ・HP上および専攻科棟入口への掲示で対応済み。JABEEについては令和3年度より継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分については次年度以降は対応無し。(専) ・実施している。(機) ・教育目標のパネルを作成し掲示し、説明を行っている。(生) ・教育目標などを記載したパネルを掲示している。卒業生へのアンケートも実施している。(材)	専:A 機:A 生:A 材:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分は削除依頼。(専) ・今年度と同様に実施予定であるが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
340	認 8.1	⑤										△	△	△	△						・JABEE委員会を通じて各コースへ整理有無は検討していただいていたが、令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目は削除予定。(専) ・実施している。(機) ・必要に応じて実施している。(生) ・科目配置図・教育目標などを記載したパネルを掲示している。(材)	専:A 機:A 生:A 材:A	A		・令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分は削除依頼。(専) ・必要に応じて行うが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
341	認 8.1	⑤																			・毎年4月に実施していたが、本年度はコロナのため実施できず、次年度4月に実施する予定(教) ・アドミッションポリシーについては修得科目との関連性を調査した。また本年度受審の機関別認証評価においても確認した。(専)	専:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専)
342	8	8.1	⑥									△	△	△	△	△	△	△			・全科目作成し活用されている。(教) ・対応済み。(専) ・実施している。(機) ・授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を周知している。(生) ・全ての教科においてWEBシラバスを作成し、授業開講時に活用している。(材) ・作成して活用している。(文) ・実施している。(理)	教:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専) ・継続(文) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
343	認 8.1	⑥										△	△	△	△	△	△	△			・全科目に明記された。(教) ・対応済み。(専) ・実施している。(機) ・記載した。(生) ・事前学習に関して明記している(材) ・事前学習に関して明記している。(文) ・実施している。(理)	教:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して対応を依頼していく。(専) ・次年度も継続する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う。(文) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
344	認 8.1	⑥																			・科目担当教員に向けてアンケートを実施している。(教) ・科目担当教員へアンケートを実施し、確認済み。(専)	教:A 専:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専)
345	8	8.1	⑥																		・年4回の試験ごとに成績表を保護者へ送付している。(教) ・学生に対しては例年通り適切な時期に開示しており、保護者へも年度末に成績評価結果を送付している。(専)	教:A 専:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して開示していく。(専)
346	8	8.1	⑥									○	○	○	○	○					・生物応用化学科で実施予定(教) ・該当なし。(専) ・該当なし。(機) ・本年度該当なし。(電) ・該当者はなかった。(制) ・編入生に対して、生物応用化学概論の科目で、3年以下の専門科目の復習を生化教員で連携して教授している。(生) ・該当なし(材)	教:A 専:D 電:D 制:A 生:A	A		・次年度も事例があれば実施する。(教) ・継続して実施していく。(専) ・必要に応じて行う。(機) ・事例が出た段階で対応(電) ・必要に応じて実施する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
347	外 8.1	⑦																			○	学課:A	A		・年度別進路状況表(県内・県外が把握できる資料)をホームページにアップした。(学課)
348	8.2 人事に関する計画																								
349	(1) 方針																								
350	8	8.2	(1)	①																	△	学:B 祭:B	C		・外部コーチを例年通り実施した。(学) ・土日祝日の日直を外部委託している。(祭)
352	8	8.2	(1)	②																	○	総:A	A		・対象者の確実な参加に努めた。(総)
353	8	8.2	(1)	③								○	○	○	○	○	○	○			・第4期中期計画期間中の教育体制整備に伴う各学科ごとの人員枠で考慮している(教) ・該当なし。(機) ・現段階では具体的には検討していないが要検討事項であることは確認。(電) ・必要に応じて、助教の採用を積極的に行う。(制) ・昨年度公募した。今年度該当なし。(生) ・該当なし(材) ・今年度助教を採用した。(文) ・現段階では検討していない。(理) ・教授2 → 助教3、准教授4 → 助教5を選択し、現員75を確保した。(総)	教:A 電:C 制:A 生:C 文:A 理:B 総:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・学校全体で考える事実であるが、協力依頼があれば検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて実施(電) ・必要に応じて実施する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・予定なし(材)
354	8	8.2	(1)	④	1																				1.1(3)1と同じなので省略
355	8	8.2	(1)	④	2																				1.1(3)2と同じなので省略
356	8	8.2	(1)	④	3																				1.1(3)3と同じなので省略
357	8	8.2	(1)	④	4																				1.1(3)4と同じなので省略
358	8	8.2	(1)	④	5																○	企:A 教:A	B		・アンケートを実施した。ワークライフバランスに関する講演会の計画を行った。(企)
359	8	8.2	(1)	④	5																○	教:A 学:B 相:B 祭:B	B		・特別支援教育委員会において支援申請書や要配慮学生の確認体制を整備し、実施している(教) ・特別支援教育委員会において教務主事主導で実施している。(学) ・学生指導支援連絡会並びに特別支援教育委員会と連携し、点検・見直しを図っている。(相) ・学生指導支援連絡会並びに特別支援教育委員会と連携し、点検・見直しを図っている。(祭)
360	8	8.2	(1)	⑤								○	○	○	○	○	○				・前掲のため未記入(教) ・教員交流なし。(機) ・過去当学科には2名の高専教員が交流で配置され、また1名が他高専に交流で派遣実績あり。年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を実施中である。(電) ・「高専連携教育研究プロジェクト」に申請した。(制) ・本年度は該当なし。(生) ・長岡技術大「高専一長岡技術大共同研究助成」採択 佐々木助教(材) ・現在設置基準ぎりぎりの人員配置となっており、こちらから活用することは困難である。(文) ・平成30年度に実施済み。(理)	電:A 制:A 生:C 材:A 文:B 理:C	C		・1名同居支援プログラムで不在であるため、設置基準ぎりぎりの人員となっているので難しい。(文) ・平成30年度に実施した成果を踏まえて、次年度に検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。(電) ・次年度も継続的に推進する。(制) ・次年度該当なし(生) ・次年度の継続実施(材)
361	8	8.2	(1)	⑥								○	○	○	○	○	○				○	電:A 制:A 生:A 材:D 文:A 理:A	A		・前掲のため未記入(教) ・該当なし。(機) ・新任教員研修に昨年度採用1名派遣。(今年度は開催がなかったが)全国高専フォーラムにも従来から積極的に参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている。(電) ・「全国高専著作権セミナー」を受講した。(制) ・オンラインで行われた研修に参加した。(生) ・該当なし(材) ・新任研修に1名参加し、全国高専フォーラムで2名の教員がポスター発表を行った。(文) ・全国高専フォーラムに参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている。(理)
362	(2) 人員に関する指標																								
363	8	8.2	(2)																		○	総:A	B		・主に若手教員、技術職員に対し教育研究支援を行った。(総)
365	8	8.2	(2)																		○	総:A	B		・事務改革推進会議を本格稼働し、3タスクホースによる協議を行った。本テーマの課題解決に向け、引き続き検討した。(総)
366	B.3 情報セキュリティについて																								
367	8	8.3																			○	情:C	C		・サーバーのSSL認証に向けた準備を行った。(情)
368	B.4 内部統制の充実・強化																								

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナウイルスにより未評価

※ 記載担当
【○】主担当
【△】副担当

グレー：昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

[最左欄] 数字欄:年度計画 認:機関別認証評価で指摘された事項(○:書面指摘,△:訪問調査時指摘) 外:外部評価委員会で指摘された事項 JB:JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民T/C長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	
369	8 8.4 ① 1		○	○	○	○															教:A 学:A 専:D 寮:C 企:A	B		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き実施する。(学) ・継続して実施していく。(専) ・検討を行う。(産) ・引き続き実施する(企)		
370	8 8.4 ① 2																									
371	8 8.4 ① 3																									
372	8 8.4 ① 4																									
373	外 8.4 ② 2																				○	総:A	A		・引き続き、教職員に対するコンプライアンス教育を実施する。(総)	
374	8 8.4 ② 3																				○	総:A	A		・引き続き、教職員に対する研究者倫理教育を実施する。(総)	
375	8 8.4 ③																				○	総:A	A		・内部監査等における主な指摘事項・不適切事例・講評事項等と照らし合わせ本校の体制を確認する。(総)	
376	8 8.4 ③																				○	総:A	A		・機構会計規則及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、適切な時期に校内監査を行う。(総)	
377	8 8.4 ④																				○	総:A	A		・機構開催の各種研修会等(TV会議)を公開し、研究費不正防止に関する意識啓発を図る。(総)	
378	8 8.4 ④																				○	総:A	A		・公的研究費使用マニュアル(久留米高専)を更新し、規則変更等に対応できる環境を整備する。(総)	
379	8 8.4 ⑤		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		教:A 学:A 専:C 企:A 図:C 産:C 相:A 寮:C	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・例年通り実施する。(学) ・検討を進める。(専) ・(継続)本年度議論できなかったため、図書館の利用の向上策を、データを基に議論し、利用率アップ策、読書数増加策などの向上策を打ち出す(図) ・検討を行う。(産) ・従来どおり行う(相) ・引き続き実施する(企)	
380	8 8.4 ⑥		○			○																教:A 企:A	B		・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き実施する(企)	
381	8 8.4 ⑥		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		教:A 学:A 専:A 図:C 産:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:B 相:A 理:B 寮:B	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・例年通り実施する。(学) ・老朽化未対応箇所の抽出を行い、随時予算要求を行っていく。(専) ・(継続)椅子の更新は出来なかったため、次年度に再度予算要求していく(図) ・対象外。(産) ・一般文理科棟の改修が行われたが、当初の計画とはかなり変更された。(文) ・従来どおり行う(相) ・実験の安全性に関する予算要求を検討する。(理) ・次年度も引き続き実施する。(寮) ・今後も必要に応じて行う。(機) ・今後も必要に応じて実施(電) ・次年度も継続的に実施する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
382	8 8.4 ⑥					○															○	企:A 総:A	A		・次年度も引き続き、開催状況の調査、報告を行う。(総) ・令和3年度に規則化し、4年度から実施する必要がある。(企)	
383	8 8.4 ⑥		○																		○		-		・次年度も引き続き実施する。(教)	
384	外 8.4 ⑥					○																企:B	B		・重点化項目を自己点検評価書に反映させる。(企)	
385	JB 8.4 ⑥					○																企:A 制:C 生:B	B		・次年度も引き続き実施する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・引き続き実施する。(企)	
386	認 8.4 ⑦		△																		○	教:A 教:A	A		・教務主事を担当から外す。(教)	
387	8 8.4 ⑦		○	○																	○	学:A 教:A 教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・緊急時における安否確認体制の改善を行う。(学) ・office365による職員の安否確認体制を検証を行う。(総)	
388	8 8.4 ⑦																				○	総:A	A		・次年度は筑後川水害を想定した訓練を予定している。(総)	
389	8 8.4 ⑧			△																	○	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き実施する。(総)	
390	8 8.4 ⑧			△																	○	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き実施する。(総)	
391	8 8.4 ⑧			△																	○	教:B 総:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き実施する。(総)	
392	8 8.4 ⑧																				○	総:A	A		・次年度は1月10日の定例開催として実施する。(総)	
393	8 8.4 ⑨																				○	総:A	A		・次年度以降も推進する。(総)	
394	8 8.4 ⑨							○														情:A	A			
395	外 8.4 ⑨					○																企:C 学:A 総:A	C		・次年度は削除(企) ・予算が余る場合は、実施を検討する。(学) ・次年度も委員会継続審議する。(総)	
396	8 8.4 ⑨			○																	○	総:A	A		・次年度も委員会継続審議する。(総)	
397	8 8.4 ⑨			○																	○	総:A	B		・次年度は教務主事を担当から外す。(教)	
398	8 8.4 ⑨		○	○																	○	教:A 学:A 総:A 寮:B	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・後援会理事会、後援会会長との連携を密にする。(学) ・次年度も引き続き、後援会事務室をサポートし、事務作業環境の改善を図る。(総) ・次年度も引き続き実施する。(寮)	
399	8 8.4 ⑨										○										○	キャ:A	A		・A評価であり維持継続する。(キャリア支援室)	

※評価基準
 A 達成
 B ほぼ達成
 C 取り組みがやや不十分
 D 取り組みが不十分
 - 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
 【○】主担当
 「△」副担当

グレー：昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

【最左欄】 数字欄：年度計画 認：機関別認証評価で指摘された事項(○：書面指摘、△：訪問調査時指摘) 外：外部評価委員会で指摘された事項 JB：JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	学務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
400	外 8.4																				・勤怠手当や昇給の査定において査定基準に基づく査定を行っている。また査定基準の見直しも行う予定(教) ・業務評価指標により、査定基準をもとに決定を行った。(総)	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き継続して行う。(総)
401	8 8.4																				・毎週木曜日を定時退勤日とし、定時退勤を促している。また、毎月1回産業医面談の機会を設け、希望者や面談が必要な対象者に対し、面談を実施している。(総)	総:A	A		・次年度も引き続き取り組みを推進する。(総)
402	8 8.4											○	○								・新任教員には、各所属学科から教員アドバイザーを指名してもらっている。(教) ・該当なし。(機) ・特にアドバイザー職の選任は行っていないが、学科長を中心に関係者全体で業務のアドバイスやサポートを行っている。(電) ・該当なし(材) ・新任の国語教員にアドバイザーを選任し、助言等を行っている。(文)	教:A 電:B 文:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も必要に応じて実施(電) ・予定なし(材)
404	認 8.4																				・委員会等終了後、各担当者が議事要旨をサイボウズに掲載した。(総)	総:A	B		・次年度も引き続き実施する。(総)
405	8 8.4				○																・校長裁量経費から一般経費へ費目移管し、補助継続(専攻科2年生の指導1人につき5万円)があった。(専)	専:A	A		・校長裁量経費から一般経費へ予算移管が行われているため、次年度からは本項目の削除を依頼する。(専)
406	8 8.4																				・奨学寄附金、共同研究及び受託研究等について、年度合計を運営委員会に報告した。(総)	総:A	A		・奨学寄附金、共同研究及び受託研究等について、年度合計を運営委員会に報告する。(総)
【追加事項】																									